



サントリーの森 天然水の森

サントリーホールディングス(株)

撮影地：天然水の森 奥多摩

✓ 「サントリー天然水の森」 全体概要

✓ 東京都内での取り組み紹介

- ・ 奥多摩
- ・ とうきょう秋川
- ・ とうきょう檜原
- ・ 東京農大奥多摩演習林

いい水がなければ、
ビールも、清涼飲料も、ウイスキーも、
なにひとつつくることができません



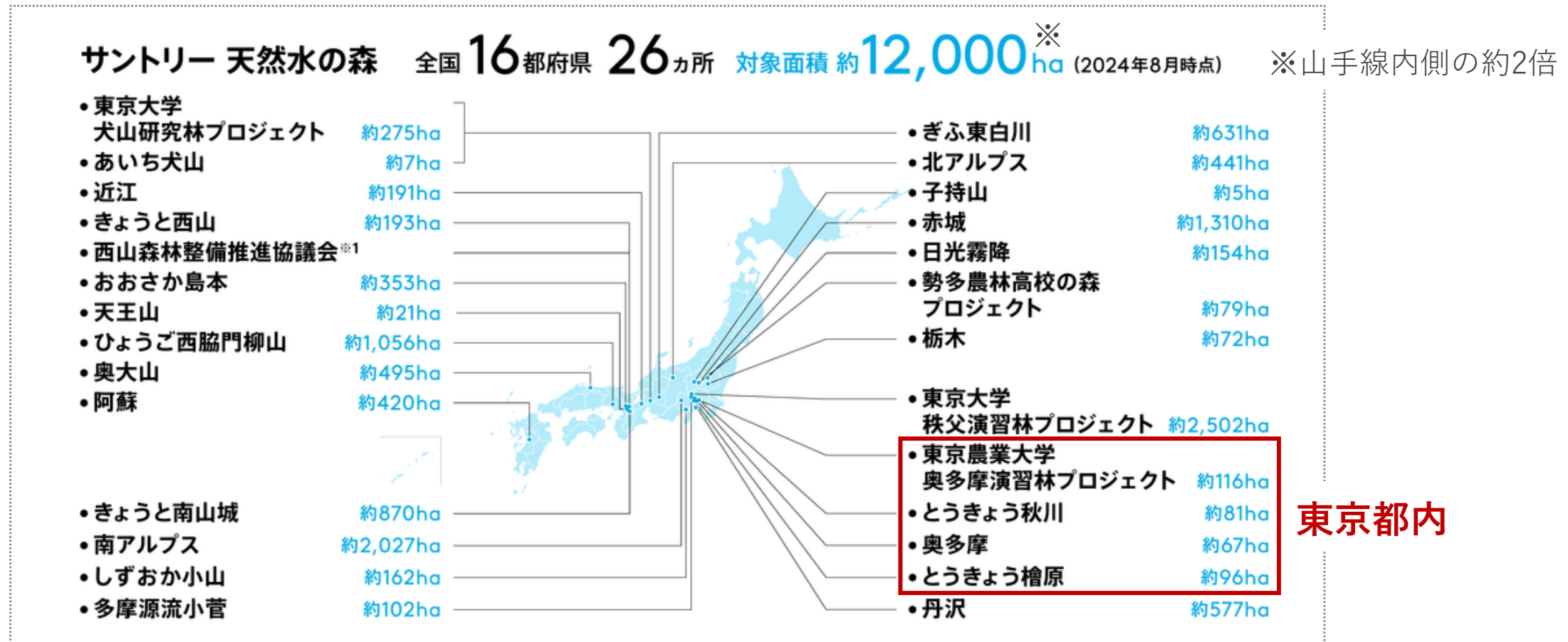
良質な地下水＝サントリーの生命線

良質な「地下水」は、もとをとれば、森で生まれます。
「地下水」を守るために工場で汲み上げる地下水より多い水を
水源涵養エリアの森で育てなければなりません

20年以上続く「天然水の森」活動(2003年～)

3/14

良質な地下水を育むため、国内工場の水源地エリアで行っている、
森林と生物多様性を保全・再生する活動です



国内工場で汲み上げる地下水量の2倍の量以上の水を涵養しています

豊かな水を育むには「ふかふかの土」が大事

4/14

ふかふかな土をつくるために、適切に間伐することで日光が入る明るい森にし、
下草や低木が生え、土壌生物が育つ環境を作っています

天然水の森活動



手入れされていない

暗い森



×

×

×

×

×

森の整備
(間伐)

日光

下草・低木

多くの土壌生物

ふかふかの土

豊かな地下水

手入れされた

明るい森



◎

◎

◎

◎

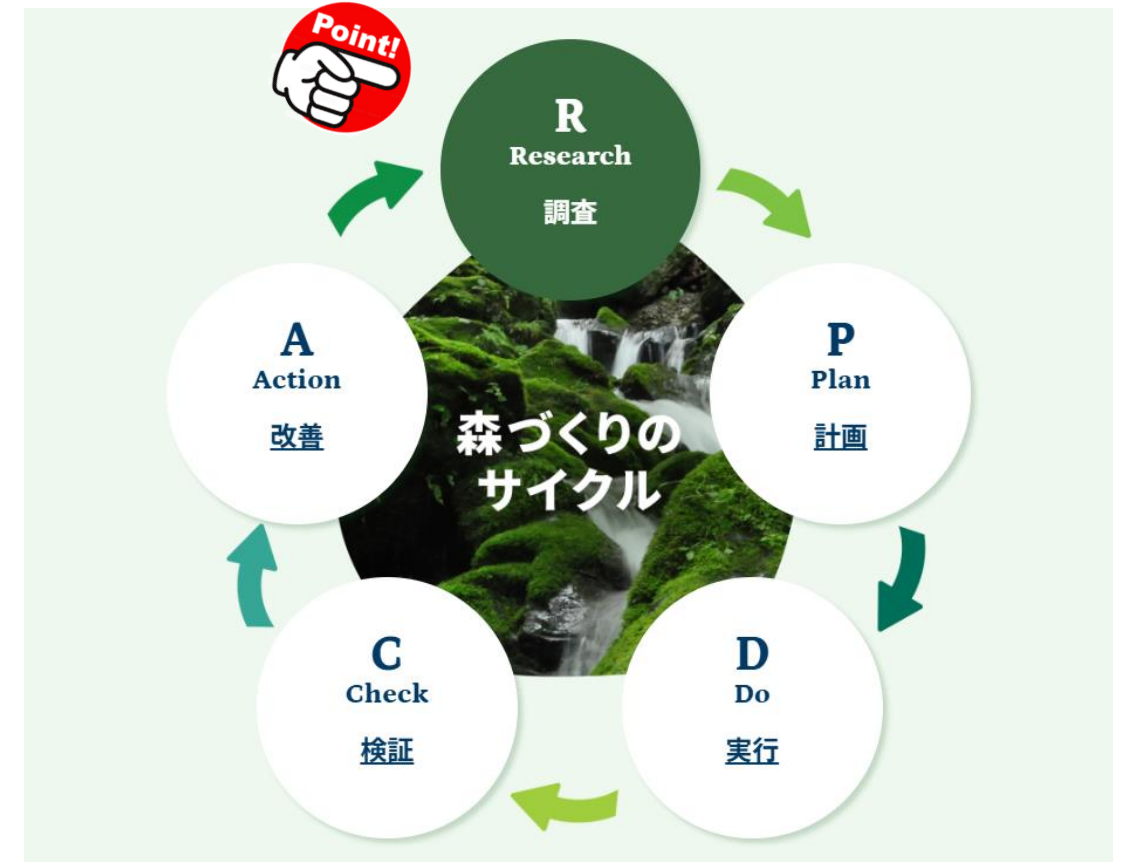
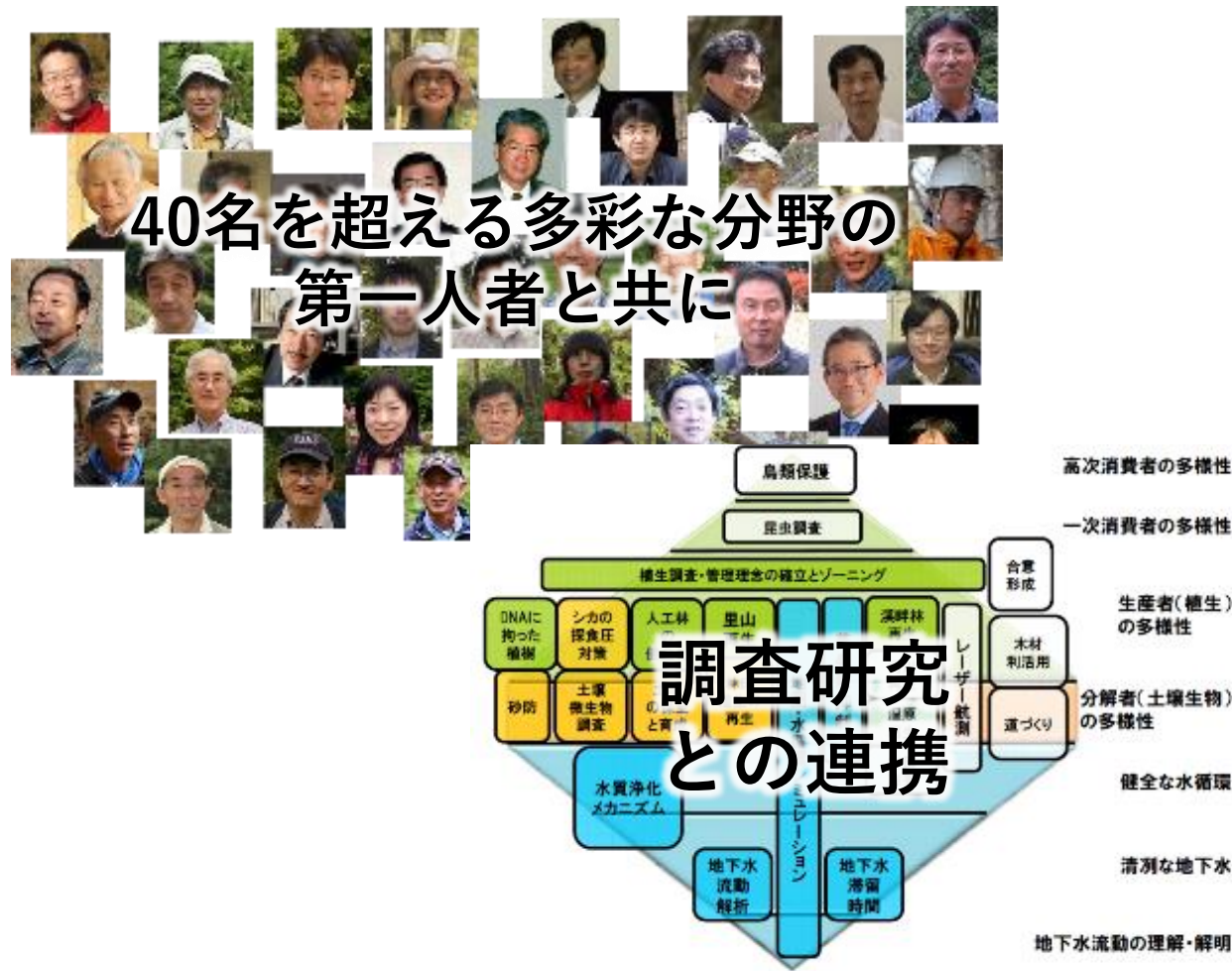
◎



地域のみなさまや様々な分野の専門家と共に

5/14

地域のみなさまや専門家の知見を「水資源」の観点から有機的に結び付けて
R(Research)-PDCAサイクルを回しています



特に大切なのが、Planの前の徹底的な調査
調査結果を基に、それぞれの森に適した整備を行っています

成果の発信：サントリー天然水の森 生物多様性「再生」レポート 6/14

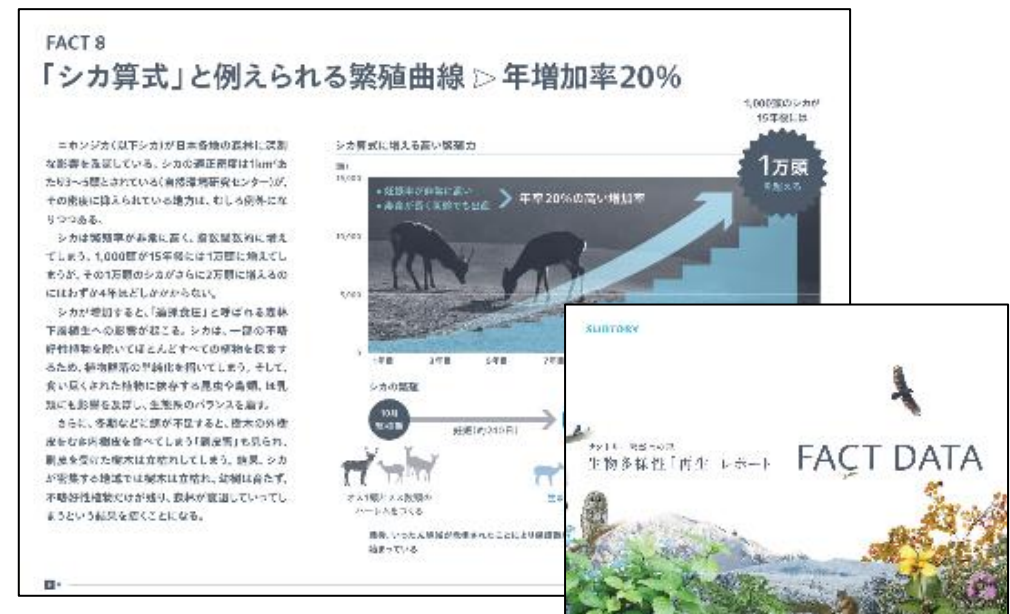
活動の成果を生物多様性「再生」レポートとして発信しています

ACTIONS編



森林の課題解決のために
「サントリー天然水の森」で行っている
先進的な活動事例の解説

FACT DATA編



日本の森が抱える
さまざまな課題をまとめた内容

「自然共生サイト」に国内企業として最多の **6カ所** が認定されています

2022年COP15で採択

30by30目標

2030年までに、**陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全**しようとするグローバルな目標



陸



海

目標	30%	30%
日本	20.5%	13.3%

※出典：環境省3by30 HP 「30by30の概要について」

生物多様性のための30by30アライアンス



- ✓ 日本における目標達成のため、有志により発足（事務局：環境省）
- ✓ 地域・企業・団体によって生物多様性の保全が図られている土地を「**自然共生サイト（OECM）**」として国際データベースに登録し、その保全を促進

サントリーは2022年4月に加盟

国内企業
最多

6カ所 の天然水の森が
「自然共生サイト」に認定

2024年
現在



未来に水を引きつぐために何ができるかを考える、次世代に向けたプログラム。
2004年に開始して、累計参加者は国内で**25万人**を超えました

水育

後援：環境省・文部科学省など

森と水の学校

2004年～

「サントリー天然水」のふるさとで開かれる
自然体験プログラム

対象 | 小学校3～6年生・保護者



出張授業

2006年～

社会科等の単元として
担任の先生と水育講師で行う授業

対象 | 小学校4・5年生



東京都内にある天然水の森

9/14



【都内工場】
〈天然水のビール工場〉
東京・武蔵野
(府中市)

多摩川工場
(稲城市)





【プロフィール】

- 〔所在地〕 西多摩郡檜原村字人里／大嶽
〔面積〕 約67ha
〔実施期間〕 2010年3月～(30年間)
〔協定者〕 東京都農林振興財団・あきる野市

※東京都農林水産振興財団「企業の森」登録

【ポイント】

数十年後を見通したゼロからの森づくり

ひとつの森でも植生や高度などで最適な整備方法が異なります。そのため、まずは植生や森林のタイプごとにエリアを区分けし、特性を調べ、エリアごとに整備計画を立案。そして、尾根筋・山腹・谷筋、それぞれの場所に最適な木を植えました。

植樹から約10年。更地だった山にも多種多様な木々が育ち、豊かな森になりつつあります。





【プロフィール】

- 〔所在地〕 あきる野市引田字二ノ谷
〔面積〕 約81ha
〔実施期間〕 2014年12月～(30年間)
〔協定者〕 東京都競馬(株)・(株)東京サマーランド・
東京都農林水産振興財団

※東京都農林水産振興財団「企業の森」登録

【ポイント】

2023年に「自然共生サイト※」に認定！

※環境省が認定する、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域の名称

フクロウ巣箱プロジェクト

自然界では営巣できる大きな樹洞が減少して、フクロウにとって営巣が難しくなっています。巨木が育つまでの緊急避難として、フクロウのための大きな巣箱かけなどを行って、環境を整備し彼らの子育てを支援しています。



営巣中のフクロウ



TVCM放映中



【プロフィール】

- 〔所在地〕 西多摩郡檜原村藤倉/小岩/上元郷/下元郷
〔面積〕 約96ha
〔実施期間〕 2023年2月～(30年間)
〔協定者〕 檜原村・檜原村木材産業協同組合

【ポイント】

グループ社員による森林整備体験

日照権の問題で檜原村が街道沿いで皆伐したエリアを、社員が植樹体験することで、コーポレートメッセージに掲げる「水と生きる」の理解を深める研修を実施しています

東京都が主催する自然体験プログラムを実施(12/1) Tokyo Nature Class

東京の多様な自然を知る参加型プログラム(Tokyo Nature Class)を開催。都内在住の小学生向けに、水のワークショップや植樹体験などを通して、自然と人の暮らしのつながりについて考えるプログラムです。



水のワークショップ





【プロフィール】

〔所在地〕	西多摩郡奥多摩町氷川
〔面積〕	約116ha
〔実施期間〕	2011年10月～(30年間)
〔協定者〕	東京農業大学

【ポイント】

伐採した木の有効活用：育林材(いくりんざい)

天然水の森では、森林整備などで伐採した木を「育林材」と名付け、家具や建物に有効活用しています。

東京農大奥多摩演習林で伐採した木は、東京農大・世田谷キャンパスの新研究棟などに使用されています。



サントリー 天然水の森

育林材®



↑ 育林材として
活用される木材

↓ 世田谷キャンパス
新研究棟 1F大階段



東京都×サントリーの取り組み

14/14

東京都と環境保全に関する包括連携協定を締結しました(2024年5月)
生物多様性を含めた各テーマに連携して取り組んでいます



①生物多様性

②資源循環

③気候変動・
エネルギー

④環境教育・啓発



森林関連パネルディスカッションに登壇

以上